



建築計画委員会活動報告

2013年度～2014年度

大会研究協議会

■2013年度

復興のプランニングⅡ ー生活圏の再生と再建

■2014年度

コンピューテーショナルデザインは構法計画を再定義するか

大会研究協議会 2013年度(北海道)

復興のプランニングⅡ －生活圏の再生と再建

■趣旨 都市計画部門（同Ⅰ）との連携

生活圏をキーワードに生活再編への動きを考察する

■成果

これまでの生活の再生・再建に向けた実例の報告

実際の集団移転の手法と評価から、住民の主体性を活かしたこまかな意見の反映、ていねいな地元合意形成が重要

行政と住民の両者の要望への応えることが必要

■課題

人口減少社会への対応として、日常を構想化するにあたり、時間軸を視野にいたした研究の必要性が求められ、それに関しても、他部門と連携した継続的な議論が求められる。

大会研究協議会 2014年度(近畿)

コンピューテーショナルデザインは構法計画を再定義するか

■趣旨

急速に進化しつつあるコンピューテーショナルデザインの実情から構法計画のあり方を考察する

■成果

マスカスタマイゼーションを指向したDTPに似た生産実態、「かたち」から「しくみ」にシフトしつつあること、アルゴリズムックデザイン、BIMの可能性と課題、ICT教育のあり方、などの話題が提供された。

従来の限界や職域の境界を突破する可能性が見いだされた。

■課題

構法の文法そのものを自由にデザインできるのではないか、時間や地域を超えた建築生産のあり方と可能性をさらに追求する必要性がある。

その他の大会研究集会

■2013年度テーマ

- ・PD:「そこへ住まうことの意味～住まいと住まい方、その選択の現代性～」
- ・PD:「非常時から日常へ 見えない避難生活の現場から」

■2014年度テーマ

- ・PD「公立小中学校を中心とした公共施設再編における課題 ー施設および地域の安全・安心の視点から

震災関連の活動

- 住宅復興事例収集 WG(2012～2013)
復興事例収集 WG (2014～)
- 震災関連計画系研究情報 WG (2011～2013)
計画系震災研究アーカイブ WG (2014～)
- 東日本大震災合同調査報告書(建築計画)WG(2014～)

住宅復興事例収集 WG (2012年度～2013年度)

■ 目的

東日本大震災の住宅復興の過程について、すぐれた取組みを収集し、資料として記録すること。

- ・住宅復興に向けて進行中のプロジェクトをリストアップ
- ・行政施策と生活実態とを照合した課題を把握
- ・参考となる既往の復興事例の収集

→ 2013年度大会PD「日常へ」資料集を作成

「住宅の復興に向けての事例紹介」として公開

2013年度大会PD「日常へ 見えない避難生活の現場から」開催

WGの成果を発表し、日常性の回復について議論

成果を震災関連計画系研究情報WGのページに掲載。

2015年度から復興事例収集WGとしてさらに展開させ作業を継続

計画系震災研究アーカイブ WG (1)

東日本大震災後に震災関連の建築計画学研究の推進を支援するために設置。情報交換・研究成果の蓄積・公開を目的とする。本WGの前身である「震災関連計画系研究情報WG」(2011～2013年度)のホームページが速報・中間情報の交換を中心としたのに対し、成果報告・まとめへと軸足を移し継続する。

■ホームページのリニューアル

<http://news-sv.aij.or.jp/keikaku/shinsai-infoWG2014/index.html>

日本建築学会 → 委員会活動 → 常置調査研究委員会 → 建築計画委員会 → 計画系震災研究アーカイブWG ホームページ

一般社団法人 日本建築学会 建築計画委員会

計画系震災研究アーカイブWG 2014

ホームページ開設のお知らせ

このページは、建築計画委員会内に設置した計画系震災研究アーカイブWGが運営するサイトで、東日本大震災に関連する建築学における計画系研究の様々な研究・活動の情報交換を行うためのものです。また、東日本大震災合同調査報告書(建築計画編)の作成の支援も予定しています。

震災関連計画系研究情報WG(本WGの前身)はこちら

新着情報/2014.11.05 更新

2014.11.05	合同調査報告書(建築計画)進捗情報に、「東日本大震災合同調査報告書(建築計画部門)構成表」を公開しました。ご意見・ご質問をお寄せください。(連絡先:sugawara[at]mark.enghokudai.ac.jp)
2014.11.05	WG提供資料に、「計画系委員会による東日本大震災関連研究・支援活動サーベイ結果報告」を公開しました。周知・ご検討・ご回答に多岐の方々のご協力をいただきました。ありがとうございました。(ご意見等の連絡先:shinsai.archive.wg[at]mark.jpmail.com)
2014.11.05	WG提供資料に、「大会・計画系部門・東日本大震災関連研究発表リスト(2012-14年度版)」を公開しました。どうぞご利用ください。
2014.11.05	WG提供資料に、「2014年度大会の建築計画部門震災関連オーガナイズセッション報告」を公開しました。ご参照ください。
2014.03.24	研究・支援活動サーベイ入力フォームを開設しました。多くの計画系委員会のご回答をお待ちします。締切:2014年9月30日
2014.03.24	震災関連研究アーカイブWG2014ホームページを開設しました。

研究・支援活動サーベイ
入力フォーム

研究・支援活動実施情報

合同調査報告書(建築計画)
進捗情報

WG提供資料

計画系震災研究アーカイブ WG (2)

■公開内容の改訂

学会で発表された研究成果の諸リストを継続し、さらに計画系会員によって行われた東日本大震災関連の活動の紹介・東日本大震災合同調査報告書(建築計画部門)の進捗情報を新たな情報として加え、3つの軸として公開している。

➤ 計画系会員による東日本大震災関連研究・支援活動サーベイ フォーム (2014年9月30日調査終了)

➤ WG提供資料 (2014年11月5日-)

- 計画系会員による東日本大震災関連研究・支援活動サーベイ結果報告
- 大会・計画系部門・東日本大震災関連研究発表リスト(2011-14)
- 2014年度大会建築計画部門震災関連オーガナイズドセッション報告(2012年より継続)

➤ 東日本大震災合同調査報告書(建築計画部門)進捗情報(2014年11月5日-) ➤ 報告書構成案

以上が現在掲載されている情報である。今後も論文集等の情報の追加・合同報告書の概要など情報の一層の拡充に努める予定である。

今後、会員による成果から得られた知見が互いの研究に反映され、研究の一層の進展が見られることと考える。一方で、今回の震災研究は合同調査報告書の完成をもって一定の区切りを迎える。本WGもその時点をもって区切りを迎えるものと思われる。

東日本大震災合同調査報告書(建築計画)WG

建築計画委員会として、東日本大震災合同調査報告書「建築編10(建築計画)」の編集・執筆に取り組むことを目的とし、2014年8月に設置。

■ 合同調査報告書(建築計画)進捗状況の公開

<http://news-sv.aij.or.jp/keikaku/shinsai-infoWG2014/index.html>

日本建築学会 → 委員会活動 → 常置調査研究委員会 → 建築計画委員会

→ 計画系震災研究アーカイブWGのホームページ → 合同調査報告書(建築計画)進捗情報

■ 章構成と取りまとめ担当者

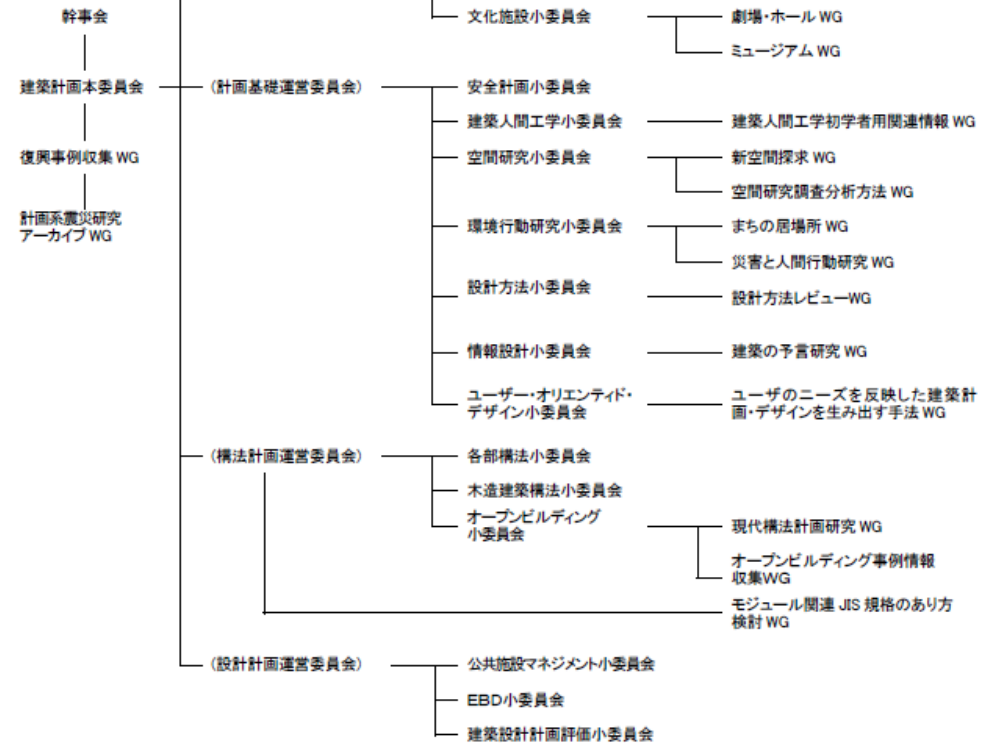
- | | |
|----------------------|--------------|
| ➤ 第1章 建築計画分野における調査研究 | 森傑(北海道大学) |
| ➤ 第2章 人間の行動 | 石井敏(東北工業大学) |
| ➤ 第3章 住宅 | 黒野弘靖(新潟大学) |
| ➤ 第4章 公共建築 | 坂口大洋(仙台高専) |
| ➤ 第5章 避難所・避難施設 | 伊藤俊介(東京電機大学) |
| ➤ 第6章 仮設建築 | 岩佐明彦(新潟大学) |
| ➤ 第7章 震災復興と計画技術 | 新井信幸(東北工業大学) |

■ スケジュール

2015年3月執筆依頼、2015年6月第1稿、2016年2月最終稿、2016年3月建築計画委員会(3月)にて査読依頼、2016年8月建築計画委員会(7月)査読終了・発行

2014 年度 建築計画委員会 組織構成

運営委員会・小委員会の活動



住宅計画運営委員会

住宅計画小委員会

住宅地計画小委員会

高齢者・障がい者等居住小委員会

比較居住文化小委員会

地域居住小委員会(～2013年度)

コミュニティ居住小委員会(2014年度～)

ライフスタイル小委員会

住宅計画小委員会

■2013-2014年度の主な活動

- 1) 東日本大震災の住宅復興等に関する研究
 - ① 仙台、南三陸仮設住宅居住者調査
 - ② 復興公営住宅の建築計画像に関する研究発表（4編）

- 2) 住宅系研究論文報告会の実施
 - ① 第8回（2013）発表論文数29編、参加者56名
 - ② 第9回（2014）発表論文数20編、参加者50名

- 3) 研究者と実務者のクロストークの開催
 - ① 住宅復興における実務と研究
 - ・ 集合住宅研究会（復興公営住宅設計事務所）
 - ② リフォームにおける実務と研究
 - ・ 住友林業
 - ③ マンション・集合住宅供給における実務と研究
 - ・ 市浦ハウジング&プランニング、長谷工コーポレーション

住宅地計画小委員会

■ 2013-2014年度の主な活動

1) 「巡業型活動」事例見学会+研究会

- : 既成住宅地の実態と経年変化の把握により、今日的な課題や可能性を検討
- : 住宅計画から地域計画まで幅広い専門家が結集し、多面的な評価・議論
- : 事例報告書の作成

- ・ 海外の計画住宅地・現代集合住宅調査
(マニラ・ジャカルタ・シンガポール等)

2) 東日本大震災復興支援研究

- : 仮設住宅地現況把握および災害復興公営住宅調査
 - ・ 現地調査 (2013. 2. 宮城県・弘前大学 北原先生)
 - ・ 研究委員会 (2014. 3 宮城大学 永松先生)



見学事例集作成

- [illegible]

-

A photograph showing three individuals (two men and one woman) seated at a long wooden table in a room with a large projection screen in the background. They appear to be participating in a formal presentation or meeting.

- ## ■成果

■ 課題

被災地への継続的な関わりと情報収集・情報発信、より多くの事例の収集

比較居住文化小委員会

当小委員会は、激変する現代において
居住文化を取り巻く状況をフィールドワークに
よって究明しています。

■2013年度の主な活動

- ・ 公開研究会『自然災害と居住文化』（2013年11月）
- ・ webサイトの立ち上げ

<http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s25/committee.html>

■2014年度の主な活動

- ・ 公開研究会『人の移動と居住文化』（2015年3月）
- ・ 拡大研究会『パブリックヒストリーの実践としての
南カリフォルニアにおけるハウス・ミュージアム』（2015年3月）

■成果と課題

- ・ フィールドワークを基にした研究事例の整理と集積、研究者相互の
交流がなされている
- ・ 委員会HPを開設したがコンテンツが不十分である
- ・ 書籍の刊行スケジュールが遅れ気味である

公開研究会
自然災害と居住文化

2013年11月9日(土) 15:00～18:00
日本建築学会 建築計画委員会 比較居住文化小委員会
建築会館 会議室

司会 堀江和子 (京都大学) 内海佐和子
15:00～15:10 趣意説明 京都大学 清水郁郎
15:10～16:40 主題解説
「自然災害への人間的アプローチとその意義」 堀江和子
「スリランカ海沿いにおける人々の生活の再生と復興」 高桑史子
「インド洋沖の島嶼における人々の生活と社会関係の形成」 前田昌弘
申込方法: 11月1日までにメールで
申し込みください。
連絡先: 前田昌弘 (京都大学)
maeda@arch.kyoto-u.ac.jp

16:50～17:50 討論 コメンテーター 京都大学 牧野男
17:50～18:00 まとめ 日本大学 栗原伸治



公開研究会 日本建築学会 建築計画委員会 比較居住文化小委員会
**人の移動と居住文化 都市が媒介する
多様性をつなぐ**

主題解説①
モスクにあらわれた
環インド洋の文化交流
深見奈緒子 (早稲田大学)

司会 内海佐和子 (京都大学)
趣意説明 堀江和子 (京都大学)

主題解説②
移動する出家者たち:
ヤンゴンの都市僧院をハブとする
「教養の巡礼」
蔵本龍介 (東京大学)

ディスカッション 前田昌弘 (京都大学)
北原裕子 (日本大学)

主題解説③
コロンの下町から
スリランカとインド洋を
眺める
山田協太 (京都大学)

まとめ 本間健太郎 (京都大学)

2015年3月7日(土) 14時00分～17時30分

会場 日本建築学会 建築会館会議室 東京都港区芝5-26-20
URL: <http://www.aij.or.jp/jpn/guide/map.htm>

申込先 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 山田協太
E-Mail: yamada@naniya.kyoto-u.ac.jp
定員 30名 (申込枠も満席)
参加希望者は、2月27日(金)迄に上の申込先にメールでご連絡下さい。
参加費 会員 2,000円、会費外 3,000円、学生 1,000円 (資料代含む)



地域居住小委員会(～2013年度) コミュニティ居住小委員会(2014年度～)

■主な活動

1) 歴史的市街地まちづくり事例見学・研究交流(2013年)

① 京都膏薬辻子地区見学・研究報告(森重)、堀川団地まちづくり見学／学生含め11名参加

協力: 京都府住宅供給公社ほか

② 奈良今井町地区見学・研究報告(牧野)、今井町・八木空き家バンクヒアリング／学生含め11名参加

協力: NPO法人今井まちなみ再生ネットワークほか



奈良今井町見学のようす

2) 郊外居住地まちづくり事例見学・研究交流(2014年)

① 横浜市郊外居住地における丘陵地居住のまちづくり事例見学・研究報告(安武・藤岡)・交流会／住民ら80名参加

協力: 川島地域まちづくり検討会、横浜市保土ケ谷区ほか

② 小委員会委員5名による科研費研究成果の共有

地方都市の居住課題について(安武・原田)、首都圏郊外の居住課題について(藤岡・新井・小杉)

3) 復興過程におけるコミュニティ構築・再建支援(2011～継続中)

小委員会委員やWGメンバーによる主に宮城県を中心とした活動と情報共有

・仙台(新井・小杉・藤岡ほか)
・石巻(真野・野田・片岡ほか)
・気仙沼(阿部ほか) 等

2015年度大会オーガナイズドセッション企画実施
「居住の安定を支えるコミュニティ空間」(17編応募)

仮設住宅リユーススタディWG活動の成果とあわせて公開研究会の開催等、次期へ

ライフスタイル小委員会

■設置目的

- 住宅建築は、そこに住む人々の生活のあり方に規定されていることから、生活者自身を知ることが重要である。そこで、個人や家族の生き方やその集団の生活のあり方、その文化的価値に注目した研究活動をおこなうために、ライフスタイル小委員会を設置する。
- 2013年度は「少子高齢社会における家族のゆくえと住まいのこれから—共同・協働と住まい」をテーマに活動を進める。
2014年度は「現代の諸問題に対応する住まいの周縁領域」に関する枠組みと課題について討議する。

■2013-2014年度の主な活動

- ・公開研究会の開催
「もうひとつの居場所(サードプレイス)をどこに持つ？」—家族を超えたつながりの場—参加者29名
- ・実践者と研究者、運営者の3者から、「つながる場」の実態と課題を検証し、委員内での「つながる場」への必要性・課題を共有化
- ・事例の収集： 先進事例の見学
ライフスタイルと住宅地の新たな潮流について 「MAD Cityプロジェクト」プロジェクトの枠組み、多様な住人の関わり、セルフDIYの現状など
- ・「住宅系研究報告会論文集」に対する支援

施設計画運営委員会

医療施設小委員会

教育施設小委員会

地域施設計画小委員会

ワークプレイス小委員会

福祉施設小委員会

文化施設小委員会

医療施設小委員会 2013-2014年度活動報告

■設置目的

社会的ニーズへの対応に止まらず、医療政策・制度や医療関連技術の革新に従って年々変革が求められる医療施設の建築計画について、今日的主題を設定し、それに従い研究者・実務者・関係者らと検討・提案を行う。

■主な活動

- ・ 小委員会委員12名＋WG委員12名で活動
- ・ 施設見学会・勉強会の実施(5回)による知見の蓄積と議論の展開

／テーマ「精神科病院の安全・安心/のぞえ総合心療病院」「基幹災害拠点病院の安全・安心/佐賀県医療センター好生館」（2014年6月実施、参加者数13名）

／テーマ「一般病床の安全・安心/星総合病院」「精神科病院の安全・安心/竹田総合病院」（2014年7月実施、参加者数16名）

／テーマ「リハビリテーション病院の安全・安心/西宮協立リハビリテーション病院」（2014年9月実施、参加者数17名）

／テーマ「精神科病院の災害時の安全・安心/高知県立あき総合病院」「小児科病院の災害時の安全・安心/四国こどもとおとなの医療センター」（2014年12月実施、参加者数12名）

／テーマ「周産期医療の安全・安心/八千代医療センター」（2015年3月実施予定）

■次年度以降の検討課題

- ・ 事例集の刊行企画の検討
- ・ 中間報告としての公開研究会の開催



▲西宮協立リハビリテーション病院内での勉強会の様子



▲ 星総合病院の見学会の様子

教育施設小委員会

■設置目的

- ・学校建築に関する研究及び設計事例について情報交換を行い、見学会の企画実施、研究会の開催、シンポジウムを通じて発信する。
- ・戦後学校建築計画に関して行った関係者へのインタビューを元に、今日の学校建築の歴史的な記録をまとめ、出版する。



公開研究会の様子：会員外の参加者も多く集まり、多角的な議論がなされた(2014.10)。

■2013-2014年度の主な活動

- ・戦後の学校建築計画に関わった研究者、設計者、行政関係者などの講演をまとめ書籍として出版する計画を進めた。
- ・学校施設を取り巻く様々なテーマから委員会内の情報交換を行うと共に**公開研究会**を開催した。
 - ①「日本からみた海外の学校建築 -なぜ、どのように海外事例を参照するのか?-」→海外事例研究の目的や意義を紹介し、学校建築計画に於ける海外事例研究の役割について議論を行った(参加者数45名)。
 - ②「教育と公共施設再編の観点からみた学校統廃合の歴史・現状・可能性」→公共施設マネジメント小委員会との共同企画・開催により、学校統廃合について多角的に議論した(参加者数57名)。
- ・毎年1～2回の学校を始めとする教育施設の見学会を実施。

地域施設計画小委員会

■ 設置目的

地域の生活や活動を支える各種建物、そして都市から農山村までの多様な地域施設の計画と設計の横断的な研究を進展させることが重要であるとの認識のもとで、小委員会を設置し、全国的な地域施設の研究者と設計者が研究発表と交流活動を行い、社会へ情報発信することを目的としている。

■ 2013・2014年度の主な活動

各種建物、地域、都市等の施設計画に関する全国の研究者・実務者が、研究発表と交流活動を行い、地域施設の計画研究と設計の深化を図るため、各年度7月に2日間にわたる地域施設計画研究シンポジウムを開催した。

その際、論文募集、論文概要の審査、論文の審査、再文審査等の過程を経て、地域施設計画研究を編集・発行した。

〈開催日、発表論文数〉

○ 2013年度

第31回地域施設計画研究シンポジウム

7月18・19日 地域施設計画研究31(44編)

○ 2014年度

第32回地域施設計画研究シンポジウム

7月17・18日 地域施設計画研究32(34編)

ワークプレイス小委員会

■設置目的

人々の働き方や働く場所が多様化する社会状況に対応して、オフィス・ビル(建築)にとどまらず様々な業態の働く場としての「ワークプレイス」のあり方を提案する目的で研究活動と研究交流を行う。



第1回「フリーアドレス再考」の様様

■2013-2014年度の主な活動

各委員のワークプレイスに関する知見に加え、外部の講師を迎えて「ワークプレイス・デザイン連続ゼミナール」を開催し、明日の働き方や働く場に関し、参加者と共に考察した。

第1クールとして、以下の4回が開催、計画された。

第1回(2013年5月23日開催)「フリーアドレス再考」

第2回(2013年9月20日開催):「外で働く～企業の場合」

第3回(2014年5月27日開催):「ディスロケーションする働き方と場」

第4回(2014年11月15日開催):「変革するワークスタイルの今」

2015年度に、新たな第2クールの4回を加え、あらためて、小冊子とを作成する予定でいる。



第2回:「外で働く～企業の場合」の様様

福祉施設小委員会

■設置目的

- 1) 福祉施設の現状の課題説明と新しい展開の検討
- 2) 施設環境づくりに関する実践的研究とその普及
- 3) 委員会における上記の研究活動成果の出版

■組織

- ・委員会(15名): 2013年3回
2014年6回

<傘下WG:2014年度>

- ・福祉転用のための計画技術開発WG: 8名
- ・こども施設環境情報収集WG: 9名

■2013-14年度の主な活動

1) 出版

- ①「こどもの環境づくり事典」(2014年9月)

2) 公開研究会

- ①13/7/19:「空き家・空きビルの福祉転用の実践と課題」(建築会館)参加者30名
- ②14/11/15:「社会的養護を必要とする子どもの生活の場としての施設のあり方」(大阪市)参加者34名
- ③15/2/14:「こどもの環境づくり その意義と実践」(東京大学)参加者60名
- ④15/3/14:「空き家・空きビルの福祉的活用のすすめ方」(建築会館)参加者60名<見込み>

3) 見学会

- ①14/2/11:グループホーム「もやいの家 瑞穂」ほか(岐阜県瑞穂町)、参加者22名
- ②14/9/10:小児がん治療施設「チャイルド・ケモ・ハウス」(神戸市中央区港島中町)、参加者12名
- ③14/11/22-23:福祉施設転用研究見学会および講演会
見学先:鎌倉市、横浜市の4件、参加者9名
- ④15/2/14:東京都内3カ所の保育園、参加者計36名



文化施設小委員会 (2013-14年度)

■設置目的

- ・公立文化施設の計画・設計・運営等、整備・利活用全般に関する調査研究
- ・文化施設及びそれを取り巻く環境に関わる諸課題の知見の共有と成果の公開

■組織

- ・小委員会の傘下に、劇場・ホールWGとミュージアムWGを設置
- ・WGはより専門的な諸課題を扱いながら、小委員会と一体的な活動を行う

■2013-14年度の小委員会(□各WG)活動

- ・公開見学会：穂の国とよはし芸術劇場
- ・公開研究会：避難訓練コンサート、見学会、
シンポジウム：上田市サントミュージゼ
「地方におけるこれからの公立文化施設」



- ・公開見学会：津田ホール
3月の閉館前に行う見学会

□劇場・ホールWG

- ・劇場椅子メーカーの
見学会と勉強会
- ・舞台機構メーカーの海外
事例講演と勉強会

□ミュージアムWG

- ・ミュージアムの計画・設計
第一人者の講演と勉強会
- ・展示ケースメーカーの
講演と勉強会
- ・地域資源の文化施設への転用
事例の見学会と勉強会
- ・東京国立博物館の見学と
臨床保存勉強会

計画基礎運営委員会

安全計画小委員会

建築人間工学小委員会

空間研究小委員会

環境行動研究小委員会

ユーザー・オリエンティド・デザイン小委員会

設計方法小委員会

情報設計小委員会

安全計画小委員会

2013年度「建築物の全館避難に対する安全計画」

- ・対 象: 超高層オフィスビル（特定少数）
- ・火災時の全館避難のあり方を、建築計画（ハード）や誘導方法（ソフト）を含めて検討
- ・委員会開催回数: 6回
- ・第22回安全計画シンポジウム「超高層建築物の全館避難を再考する」 2014年3月開催

2014年度「建物の用途・空間特性に応じた避難施設等の安全計画」

- ・対 象: 大規模競技場、大規模商業施設、展示場等（不特定多数）
- ・日常時、非常時に求められる安全計画に関する国内・海外基準を調査し、安全計画の要件、目標性能等を整理。

例 Inclusive Design Standard(英国 包括的デザイン基準)、
Green Guide(英国スタジアムの安全基準)

- ・委員会開催回数: 6回
- ・2015年度安全計画シンポジウムを予定



事例: 新国立競技場(8万人収容)



英国: スタジアム安全基準

建築人間工学小委員会 2013～2014年度活動成果報告

設置目的 建築空間・設備機器・家具の安全性や快適性の実現に必要な人間工学関連の知見を蓄積・更新し、これらを供給者ならびに生活者に提言することを目的とする

委員会 2013年度 計6回開催、 2014年度 計4回開催

研究会 第58回「KINECT」をつかった動作計測ワークショップ -深度データ編- 13.5.13 (20名)
第59回「暮らしの空間をシェアするー新しい居住の形態ー」 14.6.29 (63名)
第60回「パラリンピックアスリートが語るユニバーサルデザイン」 14.11.29 (25名)
シンポジウム「五感を活用したサイン環境デザインの可能性」 15.2.28 (42名)
第61回「人間工学に関連する国際標準・基準の動向」(計画準備中) 15.5.16

研究協議会 2015年度 大会時に研究協議会 準備中
「建築におけるユニバーサルデザインの到達点と展望ー建築において多様な人間をどのように捉えるか」

ショートレクチャー
委員会開催時に委員による
研究発表
Trip in North America (吉岡) 13.6.24
行動観察調査からみたカフェのサードプレス利用 (畠山) 13.8.31
心と建築 (武田) 13.11.29
脳卒中片マヒ者の後遺症状からみた外出環境について (老田) 14.2.18
『終の住処』再考 (橋本) 14.4.11
消防団員の災害対応力の向上を目的とした災害図上演習の紹介 (飯塚) 14.7.28
ユニバーサルデザインorインクルーシブデザイン? (古瀬) 14.10.2

書評会 危ないデザイン (田中) 13.4.26、誰のためのデザイン? (後藤) 13.4.26、
青木義次の計画発想法 (山崎) 13.5.27
書評会ストアの開設 14.4.15



シンポジウム(金沢) 15.2.28



ショートレクチャー

空間研究小委員会 2013～2014年度 活動報告

建築・都市空間についての研究全般における様々な調査方法や分析方法を取り上げ、その有効性や可能性を検討する。

1. 公開研究会の開催

○第76回空間研究小委員会研究会「いま、大学キャンパスに求められる空間とは」

参加者数 87名（2013年6月8日開催）

（資料名）いま、大学キャンパスに求められる空間とは

○第77回空間研究会 暮らしの空間をシェアする—新しい居住の形態—

参加者数 63名（2014年6月29日開催）

（資料名）暮らしの空間をシェアする—新しい居住の形態—

○第78回空間研究会 コミュニティのある街の形成と空間について

参加者数 27名（2014年7月26日開催）

（資料名）コミュニティのある街の形成と空間について -ジョンソンタウンを事例として-

2. ミニ研究会の開催

若手研究者による研究発表会を、委員会開催にあわせて3回実施

・永峰麻衣子氏 ・飯塚 裕介氏 ・恒松 良純氏

3. 出版

「建築・都市計画のための空間学事典(増補改訂版)」の刊行企画が決定

第77回 空間研究小委員会研究会、第59回 建築人間工学小委員会研究会

「暮らしの空間をシェアする—新しい居住の形態—」

近年、日本においても、一つの住空間を複数の人でシェアし生活する新しいスタイルの住居が増えてきている。今回は特に、積極的に共有空間を利用し人が集うことを目的とした共有の居住空間を取り扱う。ここでは、リビング、キッチン、バス・シャワーなどを共有し、個室は個室を利用するというシステムである。このような人が集まり交流することを目的とした居住空間では、共有の空間に使い勝手を兼ねたとともに、メンバーの交流を促すためのイベント等が企画される事が多い。特に近年においては、共有で生活する事をメリットとして考え、共有スペースの充実化を図ったり、物置との交流を目的として、外国人と日本人が日々の生活交流を促しするなどの取り組みが見られる。このような新しいスタイルの居住の形態について、その状況を踏まえると共に、建築計画との対応の中でどのように位置づけておくかなどについても考える。

主 催：計画部、運営委員会、空間研究小委員会主催、建築人間工学小委員会共催
日 時：2014年6月29日（日）13時00分～17時00分（両学会→研究会）
場 所：STL10 917F 上座会（ブルースタジオ）
（東京都大田区上池台3-27-4）（池袋駅東口から徒歩15分）
内 容：町会 鈴木弘樹（千葉大学/空間研究小委員会幹事）
加藤 内野由佳里（東京理科大学）
加藤 大智（13:00～13:45）共有空間、居住空間（予定）
研究会：14:00～17:00 司会：佐野友紀（早稲田大学）
はじめに：佐野友紀（早稲田大学、空間研究小委員会主催）14:00～14:05
建築計画：14:05～16:05（30分4人）
①研究者：居住者の立場から、佐藤智之、佐藤雄策（早稲田大学）（予定）
②企画：居住者の立場から、大島芳雄（ブルースタジオ）
③設計者の立場から、藤原智子（日本女子大学）
④研究者の立場から、北川智介（名古屋工業大学）
休憩15分
全体討論：16:15～18:15
まとめ：鈴木弘樹（千葉大学）18:15～17:00
＜研究会の模様＞ 佐野友紀（早稲田大学/空間研究小委員会幹事）
閉会



定 員：60名（申込先着順）
参加費：会 員1,500円 会費外2,500円 後援費2,000円
学 生1,000円（賛助代金）

申込方法：E-mailにて、建物名称、参加費額（会費外等）、氏名、
勤務先、所属を明記しお申し込みください。
（空席に達した場合はお断りの連絡をいたします）
申込先：空間研究小委員会 佐藤智之 E-mail: hokan@isl.mazda.jp

環境行動研究小委員会 2013～2014年度活動報告

【目的】環境行動研究的視点から、実際に体験される環境・場所の質を分析・評価するための理論構築を行うとともに、人と環境との豊かな関係を紡ぎ出す環境・場所の創出・維持を目指す。

■国内シンポジウム

- 社会システムと場所の質からよみとく北欧の「ふつう」の生活
 - ・日程：2013年12月14日 場所：日本建築学会
 - ・参加者：48名（会員35名 会員外9名 学生4名）

■単行本出版に向けての活動

- 単行本『まちの居場所－まちの居場所をささえる／まもる／そだてる／つなぐ（仮称）』の出版に向け、2012年度から継続して、各地のまちの居場所の見学会（大阪（千里ニュータウン 2013年3月）・名古屋（高蔵寺ニュータウン2012年9月）・東北（2014年3月）・神戸（北野工房2014年9月）など）と、議論を重ねた。2015年2月には単行本の構成・内容を議論するためのまちの居場所WGとの拡大研究会を開催。

■環境行動研究に関する基本図書・文献リストの作成

- 単行本『まちの居場所－まちの居場所をささえる／まもる／そだてる／つなぐ（仮称）』の出版に向け、環境行動研究、及び、まちの居場所に関する図書・文献などのリストを作成

■記活動成果のウェブサイトへの掲載、情報発信・提供



2013年度「北欧」公開研究会



まちの居場所の見学会（北野工房）

ユーザー・オリエンティド・デザイン小委員会

設置目的:「ユーザー・オリエンティド」(利用者中心)の理念を活動方針とし、いかなる心身状況の者でも利用可能な建築環境の構築を目指した研究活動を展開

■委員会・WG合同委員会開催 2013年度 5回 2014年度 2回 計7回

■公開研究会開催 5回

第2回 「社会的な困難に直面するユーザーを支えるデザイン」 (2013年6月30日)

第3回 「当事者参加のプロセスから考える空港設計の成果と課題」(2013年8月29日)

第4回 「見落とされてきた真のニーズを汲み取り”さりげなく”デザインする方法とは」
(2013年11月22日)

第5回 「患者側ニーズを中心とした医療施設の計画設計を考える」(2014年3月8日)

第6回 「発達障害をもつ学生の困難とニーズから大学キャンパスの学習・教育環境
を考える」 (2014年7月12日)

■見学会

第2回研究会時…大阪市西成区の無料定額宿泊所等
2013年全国大会・第3回研究会時…新千歳空港

■今後に向けて取り組んでいる現在の活動

・公開研究会の成果をもとに、「書名:利用者にとって本当のニーズを 活かすための建築デザイン 施設別の事例から(仮題)」
の来年度刊行 に向けて鋭意執筆・編集中



設計方法小委員会 2013-14年度

2013年度

「関係性のデザイン」に関する事例収集・調査研究活動

- NPO、東日本大震災を受けた対応等
- 「関係性のデザインマップ」モデル化、支援ソフトについて検討

設計方法研究の新しい展開を探る

- 生態学的アプローチについて講師を招いて議論
- 住宅設計のプロセス研究事例

これまでの成果の普及展開「設計方法の教科書」について検討

2014年度

「Designシンポジウム2014」開催

- 日本機械学会, 精密工学会, 日本設計工学会, 日本建築学会, 日本デザイン学会, 人工知能学会の6学会共催
- 2014年11月11日~13日 東京大学生産技術研究所にて 日本設計工学会を幹事幹事として
- 一般発表96編,

研究会

- 委員会開催に合わせてオープンで実施。

- | | |
|-------------------|-----------------------------------|
| 1. 2014年5月29日[木] | 山口純「C.S.パースの記号論にもとづく探求としての設計プロセス」 |
| 2. 2014年6月25日[水] | 関博紀「建築行為の生態学的分析」 |
| 3. 2014年7月28日[月] | 五十嵐雄哉「屋内位置情報を活用したコミュニケーションサービス」 |
| 4. 2014年9月25日[木] | 近藤伸亮「設計プロセスを設計するのは何だろう？」 |
| 5. 2014年10月21日[火] | 羽鳥達也「建築設計の現状から」 |
| 6. 2014年12月10日[水] | 山田哲弥「人間環境系デザイン研究の実践」 |
| 7. 2015年1月13日[火] | 脇坂圭一「建築トータル・コミッションング(性能検証)」 |
| 8. 2015年2月24日[火] | 本江正茂「アルベルティ・パラダイム」 |

「設計方法論」教科書企画 進行中

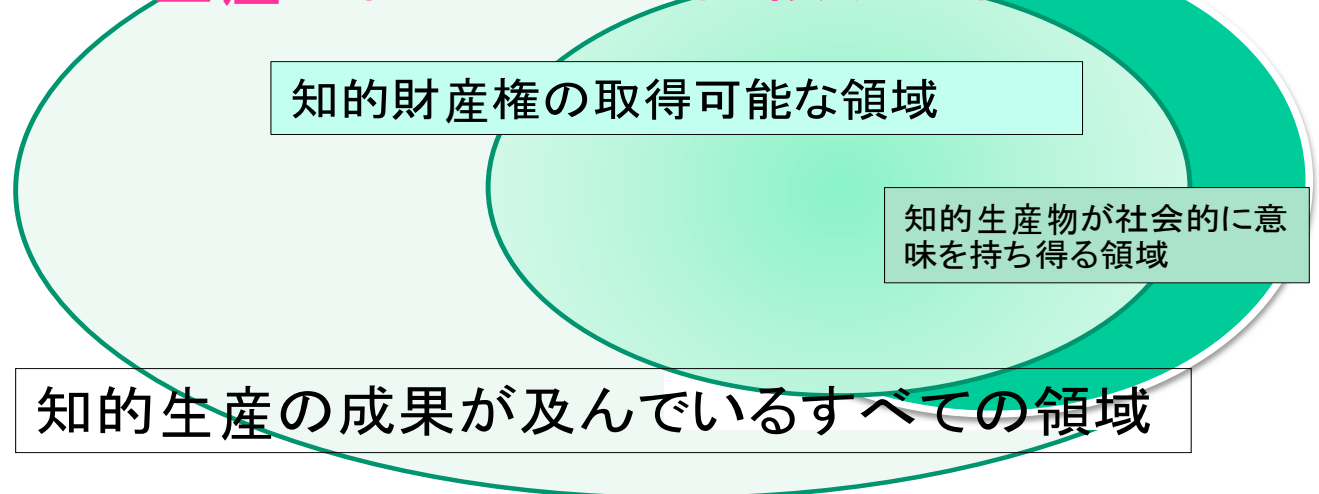


情報設計小委員会 2013-2014

設計情報=設計知的生産物の知財化可能領域

—情報設計小委員会の活動と知的成果物の考察

知的生産の社会還元可能領域と権利化のズレ 2013~15



2013~14年度の委員会活動(小委+WG)

設計と情報に関する出張シンポジウム(日大:手塚貴晴/委員有志/遠藤勝勸)

出版関連建築見学(海の博物館,函館みらい大,岩見沢駅舎,八勝館,大徳寺,聴竹居,都城市民会館,鹿児島教会・マルヤガーデン,ホーラ,プラダ)

丸卓講演:村上美奈子(学会賞受賞までの地域活動)他ゲスト

空間革命シリーズ(病院,劇場・ホール,ワークショップ,住宅,,葬祭施設)5件

出版準備集中作業>原稿輪番発表(13件×数回)+関係者ヒアリング

構法計画運営委員会

オープンビルディング小委員会

各部構法小委員会

木造建築構法小委員会

モジュール関連JIS規格のあり方検討WG

オープンビルディング小委員会

目標

・長期利用が可能な集合住宅の計画／設計／施工技術、・マスハウジング期建物、及び、団地のストック活用手法、・住宅におけるカスタマイゼーション手法の体系化、・CIBW104の日本窓口として、オープンビルディングに関する研究・実績・教育の普及活動。

主な活動(2013～2014)

0. 委員会の開催(2014第1回(6/24): ヨーロッパ研修旅行の報告、・第2回(9/30): UIAダーバン大会とジョイントで開催されたCIBW104国際コンファレンスの報告、・第3回(12/10): 国際シンポジウム「サステナブル社会のまちづくり」(12/1～3)の報告、・第4回(2/24): 豪Queensland工科大学のKaren Manley准教授講演)

1. CIBW104、Kendall 教授と共同して学生ワークショップ開催(2013/7/5～26) 2. 立川市旧市庁舎をPPPによりコンバージョンして開設された立川市子ども未来センターの現地調査、関係者へのヒアリング(2013/12/17) 3. 北京で開催されたCIBW104国際コンファレンスに委員も含め日本から5人で参加。論文投稿と発表(2013/11/15～17) 4. UIAダーバン大会とジョイントで開催されたCIBW104国際コンファレンスに主査、幹事二人も含め3人で参加。論文投稿と発表、そして主査はパネルディスカッションのモデレーターをつとめた。(2014/8/3～7) 5. 上記コンファレンスで発表したCosta Marianne氏にゲストスピーカーとしてジャカルタ・ソール・サンパウロの3都市の居住空間のアダプタビリティに関する比較を行なった研究の発表ならびに意見交換。(2014/9/30)



18th International Conference on Open Building ポスター



立川市子ども未来センターの現地調査、関係者へのヒアリング(2013/12/17)



CIBW104、Kendall 教授との共同ワークショップ(2013/7/5～26)



UIAダーバン大会CIBW104国際コンファレンスへの参加(2014/8/3～7)

各部構法小委員会 2013~2014年度 活動報告

目的 1. 大会の研究協議会・PD 2. 「参加型ナレッジベース」の構築

■2014大会 研究協議会

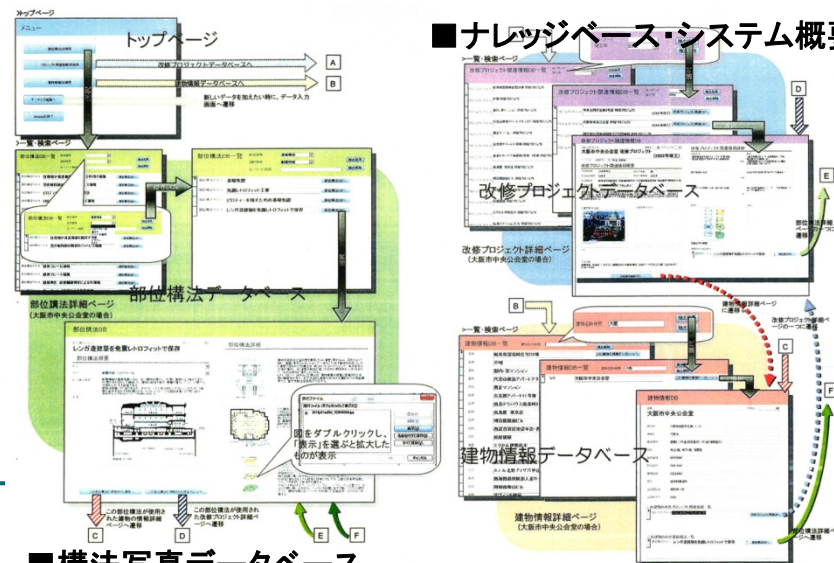
- ・オープンビルディング小委員会と共同で企画・実施し、委員会メンバーによる協議会資料を作成
- ・協議会での討論では、コンピューショナル・デザインの進展が、従来の構法計画における生産技術の「限界」や職域などの「境界」を突破する可能性に関して協議



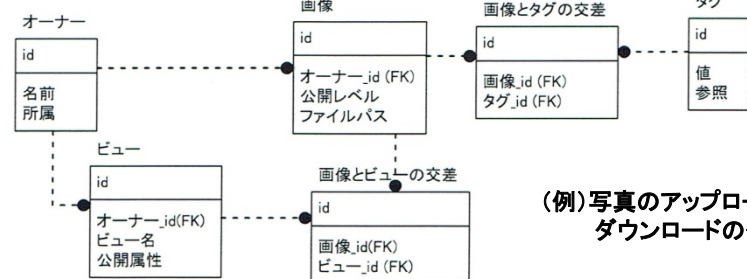
■2015大会 PDに向けて

- ・2014大会の研究協議会で協議された内容を、更に深掘りするために、ビルディングエレメントとコンピューショナルデザインをつなぐものに関して、オープンビルディング小委員会と企画
- ・構法と性能を結びつけるツールとしてBIMが有力視されているが、BIM内における部位／部品分割等の考え方に、共通のルールが形成されていないのが現状
- ・その1つの切り口として「iBE 論」を提案予定

■ナレッジベース・システム概要



■構法写真データベース



(例)写真のアップロード
ダウンロードの仕組み

主なシステム要件

- ①画像に付与するタグの項目
- ②タグの編集、類語への対応
- ③公開レベルの設定とそれによる検索結果のフィルタリング
- ④検索結果の保存(ビュー)
- ⑤アップロード/ダウンロードの仕組み

活動

成果

1. 協議会論文集「コンピューショナルデザインは構法計画を再定義するか」を作成
2. 2015年度大会のPDに向けて、企画案を検討開始

1. 改修構法データベースの試験運用WEBページを開設し (IP: 133.78.205.80)、課題を抽出 (以下の3つ)
 - ①著作権
 - ②設計者の守秘義務
 - ③施主のプライバシー
2. (改修)構法写真データベースの試作と課題抽出

木造建築構法小委員会

木造建築を、過去から現在につながる歴史性を有し、かつ持続可能な社会を支えるエコロジカルな建築と認識し、災害復旧住宅を含めた現状認識を行い、今後の方向性を見いだしていくことを目的としている。

■主な小委員会活動(研究会)

2013年度

- 日本の伝統的木造民家における部材名称の標準化と英語表記に関する研究(伝統木造用語WG成果発表会)
- 国土交通省からの話題提供と意見交換
- 木造仮設住宅の再使用・再利用に関する研究発表と討論

2014年度

- 最近木造関連で見てきたこと・考えたこと
- スイスの山村における木造住宅の更新の手法に関する調査報告

■成果

- (1)研究会・見学会 伝統的な構法、震災における木造仮設住宅、国内外における木造建築の情報収集から、持続可能な社会を支える現代の木造建築構法のあり方を探るための知見を得ることができた。
- (2)伝統木造用語WG 日本民家の用語法について、文献に用いられている呼称の対応をデータベース化した。また日英の用語比較について、日英の包括的な架構類型を対比的に示し、日英の語義の比較を図式的に行った結果、日英の構造部材用語の異同性を視覚的かつ体系的に整理した。

英: axial beamの例



日: 牛梁の例



日英部材用語の比較

川内外の壁の仕上りが木材のタイプ



福島県
社会法人福島県建設協会(木造)
木造軸組振興工法
いわき市高久第十

東日本大震災における木造仮設住宅

設計計画運営委員会

公共施設マネジメント小委員会

建築計画技術小委員会(～2013)

EBD(Evidence-Based Design)

小委員会(2014～)

建築設計計画評価小委員会

公共施設マネジメント小委員会

■設置目的

人口減少時代における公共施設再編の諸問題を、高水準・高質かつ持続的な公共施設整備のチャンスとしてとらえ、機能／空間／配置という建築計画の基本からまちづくりまで含めた枠組みで総合的に検討する。



10/25公開研究会

■2013-2014年度の主な活動

1.先行自治体視察

2014.5/20埼玉県宮代町, 2014.7/17埼玉県さいたま市,
2014.9/12大阪府豊中市

2.公開研究会

- 8/22「公共施設の再編における地域コミュニティ拠点の住民による管理・運営化に向けた現状と課題」(参加25名)
- 10/25「教育と公共施設再編の観点からみた学校統廃合の歴史・現状・可能性」(教育施設計画小委員会と共催、参加57名)
- 12/17「公共施設再編と都市計画政策の整合性・総合性」(参加26名)

3.出版物刊行

「公共施設の再編-計画と実践の手引き」、森北出版、2015.2



建築計画技術小委員会 2013年度の活動

■設置目的

環境共生、都市再生、ユニバーサルデザイン等の新しいニーズに対応した設計計画の実践、社会的制度、高度な実務教育の推進などへの要請に応えるため、以下の課題に取り組む。

- ①建築計画の学理体系、設計計画の方法・知識を整備する。
- ②建築計画と社会システム(建築基準法・都市計画法・景観法・建築士法等の法制度、性能等の基準・標準)との関係について提言する。
- ③研究と実践をリンクする様々なツールや仕組みを探求する。

(2013年度の主な活動)

課題のうち、2013年度は主として②③について、研究会を開催して議論をおこなった。

これらより、建築計画技術としては、建築計画のエビデンス(根拠)の策定に至る手法の追究が重要との結論に達し、次期の小委員会の設立に向けての理論の精査をおこなった。

EBD (Evidence-Based Design) 小委員会 2014～

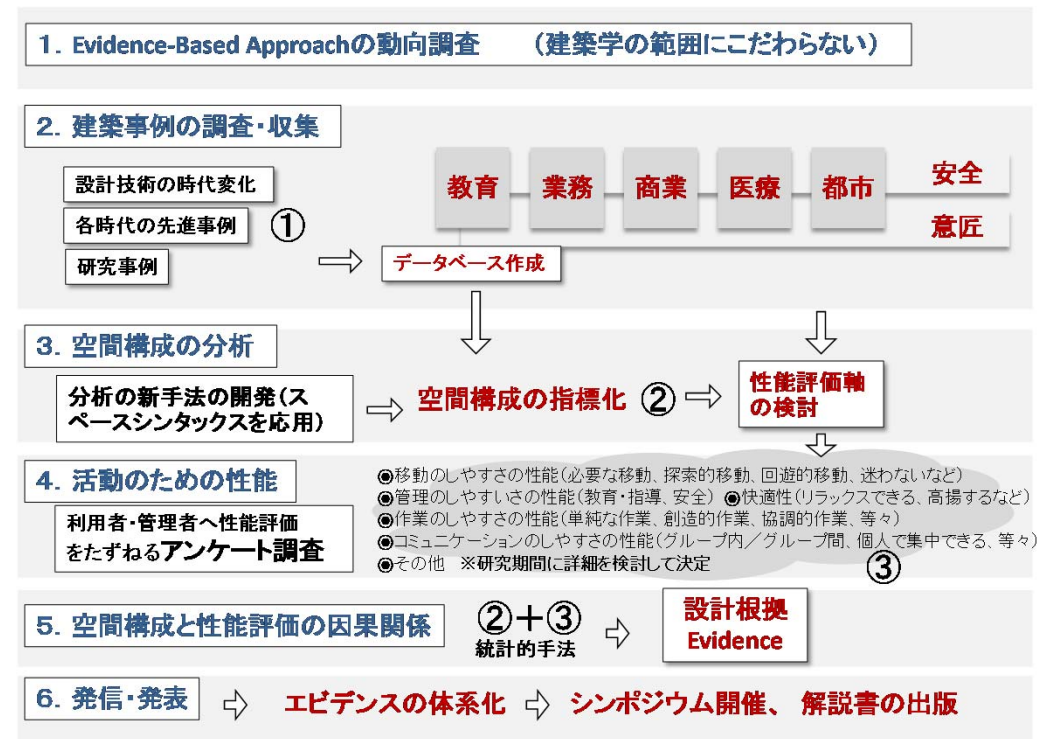
設置目的

建築・都市空間の計画技術のエビデンス(根拠)を体系化する。

①建築計画におけるEvidence-Based(根拠に基づく)アプローチ

②ビルディングタイプに共通した根拠、ビルディングタイプに固有の根拠の研究

③空間構成の性能評価、利用者・管理者による評価の研究



活動内容 (2014年度小委員会 新設)

1. EBDの概念についての検討
2. スペースシンタックスによるEBDについて検討・議論
3. 病院建築PFIのEBDについて検討・議論(拡大委員会)
4. 事務所建築のEBDについて検討・議論
5. 教育施設のEBDについて検討・議論
6. 安全計画のEBDについて検討をし、議論

建築設計計画評価小委員会

■設置目的

- 1. 設計方法論に関する計画学の新しい枠組みの構築
- 2. 建築計画学からの作品評価方法論の構築

■2013年度-2014年度の主な活動:

〈2013年度〉

- 1. 現代建築作品・プロジェクトを建築計画学から評価するため、2010-2012年度に見学してきた「建築家の自邸」に関するインタビューをもとに、普遍性・独自性のあらわれかたを把握し、設計計画におけるクライテリア(評価軸・評価基準)と評価方法を検討。
- 2. 成果を広く社会に敷衍させるため、講評方法を検討。

〈2014年度〉

- 1. 活動成果の取りまとめとして前年度まで検討してきた出版企画・仮称「建築家の自邸」について、出版社の意向との調整が難しくなったこと、設計者と委員の語りによる面白みを伝えるためには頁数が多くなること、著作権ほかの問題があることから断念し、web出版への移行を検討。
- 2. web出版後、設計計画評価に関するシンポジウムの開催企画を検討。



第11回建築家の自邸見学(内田祥哉邸)の様子